



## 2018年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2018年2月7日

上場会社名 株式会社 日本マイクロニクス 上場取引所 東  
 コード番号 6871 URL http://www.mjc.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長谷川 正義  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長 (氏名) 齋藤 太 TEL 0422-21-2665  
 四半期報告書提出予定日 2018年2月8日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2018年9月期第1四半期の連結業績（2017年10月1日～2017年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2018年9月期第1四半期	7,970	16.4	1,091	408.1	1,275	366.0	1,057	690.4
2017年9月期第1四半期	6,845	△6.1	214	△71.2	273	△65.9	133	△69.6

(注) 包括利益 2018年9月期第1四半期 1,280百万円 (151.3%) 2017年9月期第1四半期 509百万円 (12.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2018年9月期第1四半期	27.15	—
2017年9月期第1四半期	3.40	3.38

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2018年9月期第1四半期	36,911	24,041	61.7
2017年9月期	36,502	23,281	60.2

(参考) 自己資本 2018年9月期第1四半期 22,789百万円 2017年9月期 21,992百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2017年9月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2018年9月期	—	—	—	—	—
2018年9月期（予想）	—	0.00	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

(注) 2018年9月期の期末配当予想は、通期連結業績予想を公表する第2四半期決算発表において、開示する予定です。

### 3. 2018年9月期の連結業績予想（2017年10月1日～2018年9月30日）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する四半期純利益		1株当たり 四半期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	16,100	14.0	1,500	431.2	1,700	325.4	1,300	—	33.37
第3四半期（累計）	23,400	10.9	2,300	132.4	2,500	136.6	1,900	216.3	48.77

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

連結業績予想の修正については、本日（2018年2月7日）公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有  
除外 1社 （社名） 株式会社MJCテクノ

（注）詳細は、添付資料P. 8 「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動）」をご参照下さい。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2018年9月期1Q	40,025,316株	2017年9月期	40,025,316株
② 期末自己株式数	2018年9月期1Q	1,070,044株	2017年9月期	1,070,044株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2018年9月期1Q	38,955,272株	2017年9月期1Q	39,409,026株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3 「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照下さい。

（四半期決算補足説明資料の入手方法）

四半期決算補足説明資料は2018年2月7日に当社ホームページへ掲載予定であります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	8
(セグメント情報)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、米国・欧州において、政情等の不安定要素があるものの、全体として成長が続いております。一方、新興国の中では、中国経済に成長鈍化の懸念がありましたが、景気持ち直しの兆しも見られています。日本国内におきましては、所得や個人消費の回復は依然として緩慢ですが、底堅い内外需を背景に景気の緩やかな回復基調が続いております。

半導体市場においては、データセンター・車載・産業機器等向けデバイスの高需要を背景に、メモリや先端ロジックの需要が増加しました。一方、FPD市場においても、スマートフォンのOLED採用、TVの大型化・高精細化等が進み、堅調な市況となりました。

このような状況の下、当社グループは、長期的に当社が目指す姿を纏めた『MJC Future Vision』を策定し、「QDCCSS※を更に推し進めて品質と納期での競争力を高め、市場へ安心・安全を提供する事で『より豊かな社会の発展に貢献』する」企業を目指す活動に注力してまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高7,970百万円（前年同期比16.4%増）、営業利益1,091百万円（前年同期比408.1%増）、経常利益1,275百万円（前年同期比366.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,057百万円（前年同期比690.4%増）となりました。

#### ※QDCCSS（呼称：クダックス）

お客様の信頼を得ることが大切との考えから、製品の開発から製造、資材、物流、管理、システム構築のあらゆる段階において、次の6つを活動テーマとしてその改善及び改革に全ての社員の力を結集する当社独自の総合管理システム。

[6つのテーマ]

Q : Quality	(技術の向上・品質の維持)
D : Delivery	(納期の厳守)
C : Cost	(原価の低減)
C : Compliance	(法令遵守)
S : Service	(サービスの充実)
S : Safety	(労働・製品の安全)

#### <セグメントの状況>

(各セグメントの売上高は、外部顧客に対するものであります。)

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

#### ① プローブカード事業

プローブカードは、DRAM、NANDのメモリ市況が好調に推移したことで、メモリ向けアドバンストプローブカードが前年度下半期に続き高需要となりました。利益面におきましても、前年同期と比較して売上高の増加で稼働率が向上し、かつプロダクトミックスが変化した結果、増益となりました。

この結果、売上高は6,697百万円（前年同期比17.8%増）、セグメント利益は1,475百万円（前年同期比159.9%増）となりました。

#### ② TE事業

半導体装置関連は、半導体テストの高水準な受注残高もあり、前年同期比並みに推移しました。LCD検査装置関連では、装置は低調でしたが、プローブユニットについては堅調でした。利益面におきましては、前年同期と比較して売上高が増加したことで増益となりました。

この結果、売上高は1,273百万円（前年同期比10.0%増）、セグメント利益は230百万円（前年同期比14.8%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ408百万円増加し、36,911百万円となりました。これは主に、現金及び預金が439百万円減少し、受取手形及び売掛金が565百万円、棚卸資産が256百万円それぞれ増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ351百万円減少し、12,870百万円となりました。これは主に、短期借入金と長期借入金を合わせた借入金が154百万円増加し、流動負債「その他」に含む未払金が357百万円、賞与引当金が209百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ760百万円増加し、24,041百万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加667百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の市場動向等を踏まえ、2017年11月14日に公表した2018年9月期第2四半期累計業績予想を見直しすることとしました。また、新たに2018年9月期第3四半期累計業績予想を開示いたしました。詳細につきましては、本日(2018年2月7日)公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2017年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	9,756	9,317
受取手形及び売掛金	7,862	8,427
製品	503	465
仕掛品	2,638	2,866
原材料及び貯蔵品	1,033	1,099
その他	1,099	1,015
貸倒引当金	△55	△52
流動資産合計	22,838	23,139
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,555	3,540
機械装置及び運搬具(純額)	2,389	2,498
その他(純額)	3,242	3,121
有形固定資産合計	9,187	9,160
無形固定資産		
	958	946
投資その他の資産		
投資有価証券	2,953	3,086
退職給付に係る資産	72	56
その他	658	688
貸倒引当金	△167	△167
投資その他の資産合計	3,517	3,664
固定資産合計	13,664	13,771
資産合計	36,502	36,911
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,195	5,171
短期借入金	769	977
未払法人税等	263	237
賞与引当金	562	353
役員賞与引当金	40	—
製品保証引当金	479	521
その他	2,503	2,233
流動負債合計	9,813	9,495
固定負債		
長期借入金	602	549
退職給付に係る負債	1,795	1,804
その他	1,010	1,020
固定負債合計	3,408	3,374
負債合計	13,221	12,870

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2017年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2017年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	5,018	5,018
資本剰余金	5,976	5,976
利益剰余金	10,011	10,679
自己株式	△943	△943
株主資本合計	20,063	20,731
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,661	1,756
為替換算調整勘定	180	223
退職給付に係る調整累計額	86	77
その他の包括利益累計額合計	1,928	2,057
新株予約権	193	210
非支配株主持分	1,095	1,041
純資産合計	23,281	24,041
負債純資産合計	36,502	36,911

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2016年10月1日 至 2016年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2017年12月31日)
売上高	6,845	7,970
売上原価	4,593	4,786
売上総利益	2,251	3,184
販売費及び一般管理費	2,036	2,092
営業利益	214	1,091
営業外収益		
受取利息	10	5
受取配当金	4	107
受取賃貸料	18	17
為替差益	31	45
その他	2	13
営業外収益合計	68	191
営業外費用		
支払利息	4	2
休止固定資産減価償却費	3	3
その他	0	0
営業外費用合計	9	6
経常利益	273	1,275
特別利益		
固定資産売却益	0	3
特別利益合計	0	3
特別損失		
固定資産売却損	1	—
固定資産除却損	0	5
特別損失合計	1	5
税金等調整前四半期純利益	273	1,273
法人税、住民税及び事業税	117	212
法人税等調整額	△68	△78
法人税等合計	49	134
四半期純利益	224	1,139
非支配株主に帰属する四半期純利益	90	81
親会社株主に帰属する四半期純利益	133	1,057

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2016年10月1日 至 2016年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2017年12月31日)
四半期純利益	224	1,139
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	227	94
為替換算調整勘定	57	55
退職給付に係る調整額	△0	△8
その他の包括利益合計	284	140
四半期包括利益	509	1,280
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	403	1,186
非支配株主に係る四半期包括利益	105	93

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

当社の連結子会社でありました株式会社MJCテクノは、2017年10月1日付で当社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

(セグメント情報)

## I 前第1四半期連結累計期間(自2016年10月1日至2016年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1.	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2.
	プローブ カード事業	TE事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	5,687	1,157	6,845	—	6,845
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	5,687	1,157	6,845	—	6,845
セグメント利益	567	200	768	△553	214

(注) 1. セグメント利益の調整額△553百万円は全社費用であり、報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自2017年10月1日至2017年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1.	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2.
	プローブ カード事業	TE事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	6,697	1,273	7,970	—	7,970
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	6,697	1,273	7,970	—	7,970
セグメント利益	1,475	230	1,705	△614	1,091

(注) 1. セグメント利益の調整額△614百万円は全社費用であり、報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。